

落雷事故対策マニュアル

【落雷事故防止 4 箇条】

◆ゴロツ(雷鳴)またはピカッ(雷光)を認識したときには、責任理事の指示により、スポーツをただちに中断する。

◆中断後は速やかに、コンクリート建造物や自動車等の中に避難する。

◆あるいは、高さ 4～30m の物体
(樹木や電柱等)の近くで 45 度以上に
見上げる場所に避難する。ただし、
必ず 4m 以上離れて姿勢を低くする。

◆屋外にいて近くに建物や樹木がない場合には、できるだけ
姿勢を低くする。

※テントのポールは落雷を受けやすいので、テントの中は地面にひれ伏しているよりも危険。

【再開時の目安】

◆スポーツの再開は、最後の雷鳴から 30 分を基準として、責任理事が決定する

【今一度、認識を！(正しい知識)】

- ◆どんなに遠くても、かすかにでもゴロツ(雷鳴)またはピカッ(雷光)を認識したら、すぐにでもグラウンドに落雷する危険があると考えて対処しなければならない。
- ◆「ピカッ」と光った後から音が鳴るまでの秒数を数えて、雷が近いかどうかを推測したりしていないか？。この方法は昔のやり方で、今は、遠い近いに関係なく、「ピカッ！ゴロツ！」つまり音が聞こえたり光が見えたりした場合は、すぐにスポーツ活動を中断し、避難するのが鉄則です。
- ◆広大なグラウンドの中では人間が一番落雷を受けやすいので、死亡事故につながる危険性が高くなる。
- ◆人体そのものが電気を通すので、金属を身につけているかどうかということとは無関係に、落雷を受けることが実験的に証明されている。
- ◆スポーツ中の落雷事故の原因
 - ・避難せずにスポーツを継続していた。・避難するタイミングが遅れてしまった。
 - ・避難はしたけど、危険な避難場所に避難してしまった。・まだ落雷の可能性のあるタイミングで再開してしまった。
- ◆スポーツや運動時の落雷事故を防ぐために
 - ・「ピカッ！ゴロツ！」はすぐに避難。・安全な避難場所は、閉め切ることの可能な鉄筋などの建物の中。・最後の雷から何もない状態が 30 分経過してから再開。

【もし雷に当たってしまったら？】

- ◆万が一雷に当たってしまったら、まず救急車を要請する。
- ◆救急対応の基本はまず二次被害を防ぐこと。自身の安全を確保した上で、雷に当たった人に近づき(落雷を受けた人に触るのは危険ではなく、被害者の体は電気を帯びていないので触っても危険性はない)、まずは異常がないかチェック。異常がある場合には突然心停止の緊急対応として、胸骨圧迫を行う(心臓マッサージで回復しなければ AED も試みるべき)。